

世界に響くタケミツ・トーン

武満徹

世界的に有名で偉大な作曲家と云えば、誰でしょう。

あなたの思い浮かべる人物は、例えば、バッハやモーツァルト、ベートーヴェンでしょうか。日本人に限るなら、山田耕筰や滝廉太郎などの名前が挙がるかもしれませ

ん。
皆さんは、武満徹という作曲家を知っていますか。現代音楽の分野において、世界的に知られる偉大な作曲家です。明治から大正にかけて衆議院議員を務めた、現在の薩摩川内市出身の武満義雄という人の孫にあたります。若い頃、主に独学で作曲を学び、クラシック音楽から電子音楽、舞台音楽、ポップ・ソングまで、多岐にわ

【関連年表】

- 一九三一年 誕生
- 誕生後まもなく、大連に渡る。
- 一九三一年 満州事変
- 一九三七年 日中戦争
- 小学校入学のために、単身帰国。
- 一九四五年 太平洋戦争終戦。
- 一九四八年 清瀬保二に師事。
- 一九五〇年 「二つのレント」発表。
- 一九五一年 「実験工房」を設立。
- 一九五七年 「弦楽のためのレクイエム」発表。
- 一九六七年 「ノヴェンバー・ステップス」発表。
- 一九九六年 死去
- 一九九七年 「武満徹作曲賞」が創設される。

たる作品を数多く残しました。

「タケミツ・トーン」という言葉があります。彼の作った音楽から奏でられる、豊かな音色や独特の響きなどを称したこの言葉は、彼の生んだ音楽が、いかに個性的であったかを物語るものです。彼は、一九九六年（平成八年）に亡くなりましたが、世界中の演奏家やオーケストラ、そして多くの音楽ファンが、今も彼の音楽を愛し続けています。殆ど自力で作曲を学び、やがて大成していった彼の音楽人生の歩みを、もう少し詳しくたどってみましょう。

一九三〇年（昭和五年）十月八日、東京に生まれた武満徹は、生後間もなく中国の大連に渡りますが、やがて帰国し、東京の伯母の家から小学校に通うことになりました。



【考えてみよう】

武満徹のように、「家族や親戚など身近な人から、自分の生き方に何らかの影響を受ける。」ということとは少なくない。あなたはどうかだろう。

【ジャズ】

西洋音楽とアフリカ音楽の組み合わせにより発達した音楽で、アドリブ（即興演奏）、ソロ（個人演奏）、コール・アンド・レスポンス（掛け合い演奏）などの要素を組み込むことが特徴。

【シャンソン】

フランスの歌謡曲全般を意味し、中世からルネサンス時代にかけて、数多く発表された。物語性を持っている歌詞が多いことも特徴である。

幼い頃の彼が出会った音楽は、身近なところに取りま

した。中国で暮らしていた頃に父親がよく聴いていたというジャズと、師匠の腕をもつ伯母の箏の音色です。

その当時から彼が、既に音楽に対して特に大きな興味や関心を抱いていたというわけではなかったのですが、無意識に接していたジャズのリズム、父の尺八や伯母の箏の音色を通して何気なく親しんでいた日本の伝統音楽は、後の彼の作曲に大きな影響を与えたようです。「尺八や箏は、自分の音楽と心の奥深いところで関わりがある。」とは、晩年に語った彼自身の言葉です。

太平洋戦争が終わりを告げようとする頃のことです。

当時中学生だった武満は、勤労動員として食糧基地や道路を作っていました。そんなある日、先輩が、フランスのシャンソンの名曲「聞かせてよ、愛の言葉を」

【箏】



【尺八】



【勤労動員】

太平洋戦争末期、労働力不足を補うため、中学生以上の生徒や学生が軍需産業や食糧増産に動員された。

武満も勤労動員として徴用され、十五歳で終戦を迎えた。

という歌のレコードを、こっさり聴かせてくれました。

音楽って、何て素晴らしいものなのだろう——。

大きな感動と強い衝撃しゅうげきを受けた彼は、その時ついに、自分の夢を見つめます。それは、音楽家になること。この曲との出会いは彼にとって、後に「音楽への目覚めは、もうこれ以外にはない。」と述べるほどの大きな衝撃であり、武満が音楽の道へと進む大きなきっかけとなった出来事でした。

音楽家を夢見た武満は、戦後の混乱と貧しさの中、音楽への道を突き進みます。楽器を何一つ持っていないかった彼は必死に働き、仕事場にあったピアノを使っては、熱心に音楽の勉強に打ち込みました。

また、武満はアメリカ映画にも大きな関心を持ち、映画館によく通いました。後に彼は、黒澤明くろさわあきら監督の「乱」という映画で音楽を担当するなど、映画音楽にも多大な

【黒澤明】

日本映画の巨匠きょしやうであり、世界的映画監督の一人。主な作品に「羅生門」「七人の侍」など多数。

【教科書の武満徹作品】

「雨の樹」(ピアノ曲)

小学校五年生音楽の教科書(教育出版)に掲載されている。

「ノヴェンバー・ステップス」

(協奏曲)

中学校音楽の教科書(教育出版)に掲載されている。

「翼」(混声合唱曲)

高等学校音楽の教科書(音楽の友社)に掲載されている。

影響を与えていますが、現代音楽やクラシック音楽の他、様々な分野で幅広く自身の才能を発揮したところに、彼の非凡さ、尽きることのない音楽への情熱が感じられま

す。
音楽に没頭する日々の中、武満は、あるクラシックコンサート^{ほんとう}の会場で、「新作曲派協会」という組織の存在を知りました。その協会では清瀬保二^{きよせやすじ}という作曲家が活躍^{かつやく}しており、彼の「ヴァイオリン・ソナタ」に大きな感動を覚えた武満は、清瀬に弟子入りすることを決意し、この作曲家の門を叩^{たた}きます。清瀬は、武満の書いた楽譜^{がくふ}を一目見ただけで好みの音楽を言い当て、彼を驚かせました。

清瀬に師事し作曲を続ける武満に、間もなく大きな転機が訪れます。清瀬の薦^{すす}めにより、新作曲派協会に曲を

【清瀬保二】

作曲家。山田耕筰に師事した後、独学で作曲を学ぶ。新作曲派協会の設立にも参加した。



提出することになったのです。独学で作曲に取り組んできた彼が、長い時間をかけて完成させた「二つのレント」というピアノ曲。二十歳の彼の、自信作でした。しかし、この曲が発表会で披露されると、ある音楽評論家は、次のように評しました。

「武満徹は、音楽以前である。」

あなたの音楽は、音楽と呼べるものではない、という厳しい評価を投げつけられた彼は、駆け込んだ映画館の暗闇の中で涙を流しました。これまでの人生で初めての、大きな挫折でした。

しかし、このことが逆に大きなバネになり、武満はその後、仲間たちと「実験工房」というグループを設立し、新しい芸術の創造を目指した活動を積極的に展開します。例えば、様々なジャンルの作曲家の研究や、論文の寄稿、電子音楽への取組……。このように様々な分野の芸

【鑑賞してみよう】
「二つのレント」を、実際に聴いてみよう。

【考えてみよう】
武満にとって、「実験工房」の仲間達は、どのような存在だったのだろう。

術家と共に活動したことが、大きな刺激しげきになったのでしよう。やがて武満は、「楽器の音だけでなく、日常生活の中で偶然たまたま発せられる音も、音楽にとって大切な要素だ」と捉とらえるようになり、これらの影響を採り入れ、「水」と捉とらえるようになり、これらの影響を採り入れ、「水の曲」「ヴォーカリズムA・E」「遮さられない休息」「ルリエフ・スタテイング」などの諸作品を精力的に制作し、発表しました。

一九五七年（昭和三十三年）六月、当時二十七歳の武満が、東京交響楽団の委嘱いしよくを受け作曲した「弦楽げんがくのためのレクイエム」が初演されました。この作品は当初、「旋律せんりつ（メロディ）もなければリズムもない、何もない……。」といった批判的な評価ばかり受けましたが、これらの評価を覆くつがえし、世界に「タケミツ」の名を広める人物が現れます。ストラヴィンスキーという、ロシアの有

名な作曲家です。「弦楽のための…」の発表から数年後に来日した際に偶然耳にしたこの曲を、ストラヴィンスキーは「この音楽は実に厳しい、全く厳しい。このような厳しい音楽が、あんなひどく小柄こがらな男から生まれるとは…。」と絶賛ぜっさんしたのでした。この世界的な作曲家からの評価に端たんを発し、武満の作曲活動は国内にとどまらず、海外でも大きな輝きを放っていきます。数々の作曲コンクールで一位になるのはもちろんのこと、世界的に著名な楽団や指揮者のもとで、武満の音楽が発表されていきました。

武満が、ニューヨークフィルハーモニックからの委嘱を受けて作った「ノヴェンバー・ステップス」は、彼の代表曲として有名ですが、その楽団を率いて一九六七年（昭和四十二）十一月に初演を行った指揮者が、日本を代表する名指揮者、小澤征爾おざわせいじです。この曲は、西洋で誕

【薩摩琵琶】



【鑑賞してみよう】
「ノヴェンバー・ステップス」を、
実際に聴いてみよう。

【川内まごころ文学館】
鹿児島県川内市（現在の薩摩川内
市）に縁のある先人の文化遺産を伝
える。武満に関する資料も展示され
ている。



生したオーケストラに、尺八や薩摩琵琶を加えたもので、
当時としては非常に斬新で、革新的な作品でした。

幼い頃に出会った尺八や箏の音色、そして、シャンソ
ンの衝撃から始まった音楽人生。度重なる悪評を乗りこ
え、ひたすら自分の目指す音楽を信じ、追求し続けて生
まれた、大傑作でした。

その後も武満は、数多くの傑作を世に送り続け、また、
若手の育成にも情熱を注ぎます。そして、世界にその名
を刻んだ数々の音楽を置き土産に、一九九六年（平成八
年）二月、六十五年の生涯に幕を下ろしました。

その翌年、武満の優れた音楽を讃え、その遺志を引き
継ぐと、「武満徹作曲賞」が創設されました。この
賞は、祈りや希望、平和をテーマに新しい音楽の創造を
呼びかけ、新進気鋭の若き音楽家たちの発掘と育成に貢

【小澤征爾】

日本が誇る世界的指揮者。カラ
ヤン、バインスタイン等、世界的
名指揮者に師事。
武満とは特に親交が深く、音楽
的・人間的に深いつながりを築い
た。

【武満徹作曲賞】

一九九七年（昭和九年）、芸術音
楽家としての武満の遺志を引き継
ぎ、世界各国の次代を担う若い世
代に、新しい音楽作品の創造を呼
びかける。

また、同年九月、東京オペラシ
ティコンサートホール（タケミツ
メモリアル）がオープンした。

献しています。

新しい音楽、新しい芸術の創造に生涯を捧げた武満の
思いは、今も人々を魅了し、受け継がれているのです。

【主な受賞歴】

- 一九八五年
芸術文化勲章（フランス政府）
- 一九八八年
京都音楽賞大賞
- 一九八九年
日本文化デザイン会議賞国際文
化デザイン大賞
- 一九九〇年
国際モリス・ラヴェル賞
- 一九九一年
都民文化栄誉章
- 一九九三年
国際交流基金賞
- 一九九六年
グレン・ゲールド賞

【主な受賞作品】

- 「ソン・カリゲラフィー」
- ・第二回現代音楽祭作曲コンクール
一位
- 「黒い絵画」
- ・イタリア放送コンクール大賞
- 「テクスチュアズ」
- ・国際現代作曲家会議最優秀作品賞
- 映画「乱」の音楽
- ・ロサンゼルス映画評論家賞
- 「ア・ウェイ・ア・ローン」
- ・第三十六回グラミー賞最優秀現代
作品部門賞にノミネート
- 「ファンタズマノカントス」
- ・第三十七回グラミー賞最優秀現代
作品部門賞にノミネート